

# 若者に広がる オーバードーズ



## ～実態を理解し、支援方法を探る～

近年、若者を中心に広がっている処方薬や市販薬のオーバードーズ(過量服薬)。オーバードーズを繰り返すことで依存症になる可能性も指摘されています。本シンポジウムでは、オーバードーズ等を取り上げ、各分野の専門家と共に、その支援方法を考えていきます。

**参加費  
無料**  
(事前申込制)

日時

2025年2月6日(木) 18:00～開始

開催方法

Zoom ウェビナーによるオンライン開催

※お申し込みいただいた方に視聴URLをメールにてお送りします。

申込方法

インターネットフォームまたはFAXにてお申し込みください。

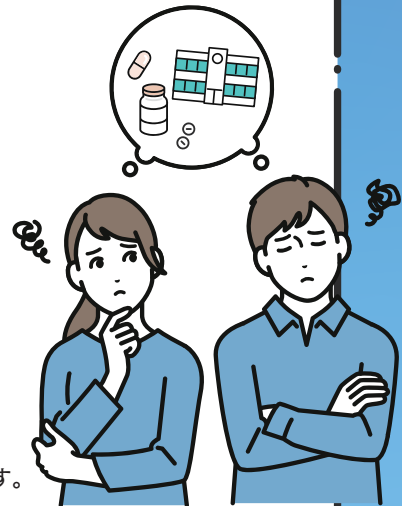
**1. インターネットの場合** 下記お申し込みフォームよりお申し込みください。  
<https://jp.smktg.jp/public/seminar/view/2377>

**2. FAXの場合**

本チラシの裏面申込欄に必要事項をご記入いただき、

**03-3545-1125** にお送りください。

記載いただいたメールアドレスに申し込み確認のメールを2営業日以内にお送りします。



プログラム

18:00～18:10	オープニング	厚生労働省・文部科学省挨拶 厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部 文部科学省 総合教育政策局
18:10～18:40	基調講演	市販薬のオーバードーズに対する理解と支援 - 「声かけ」から始めるメンタルヘルス支援 - 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也 氏
18:40～19:30	講演	「若者の依存症にどう向き合うか - 効果的な支援方法とは -」 東奥義塾中学校・高等学校 養護教諭 中村 元気 氏 「若者への包括支援プログラムについて」 特定非営利法人BONDプロジェクト 代表 橋 ジュン 氏 「OD倶楽部に集う顔なき声たち」 大阪ダルクディレクター 精神保健福祉士 倉田 めば 氏
19:30～19:45	体験談	千葉葉の花家族会 田畑 真里 氏
19:45～20:15	パネルディスカッション	オーバードーズの問題を抱える若者に対して、わたしたちができることは？ 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 心理社会研究室長 嶋根 卓也 氏 東奥義塾中学校・高等学校 養護教諭 中村 元気 氏 特定非営利法人BONDプロジェクト 代表 橋 ジュン 氏 大阪ダルクディレクター 精神保健福祉士 倉田 めば 氏
20:15～20:25	質疑応答	同上

※講演順、講演時間、閉会時間などが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

登壇者



国立精神・神経医療研究センター  
精神保健研究所 薬物依存研究部  
心理社会研究室長 **嶋根 卓也**

1974年生まれ。東京薬科大学薬学部卒業、順天堂大学大学院医学研究科 修了。薬剤師、医学博士。専門は公衆衛生学・疫学。薬物乱用・依存に関する全国調査を担当するほか、中高生を対象とした予防教育、少年院の薬物プログラムにも従事。厚生労働省「医薬品の販売制度に関する検討会」の参考人。



東奥義塾中学校・高等学校  
養護教諭 **中村 元気**

1994年生まれ。弘前大学教育学部養護教諭養成課程卒業。高校時代に不登校を経験する。大学時代に児童福祉施設でのボランティア活動を通じ社会的セーフティネットの弱さを実感する。大学卒業後2年間通応指導教室にて不登校の子どもの支援に従事し、生きづらさを感じる子どもの支援に注力する。



特定非営利法人 BONDプロジェクト  
代表 **橋 ジュン**

NPO法人BONDプロジェクト代表。ルポライター。2009年、10代20代の生きづらさを抱える女の子を支えるNPO法人BONDプロジェクトを設立。虐待、家出、貧困など様々な困難を一人で抱えてしまう女の子の声を聴き、講演・イベントなどで情報を伝え、必要に応じて専門機関へ繋ぐ活動を展開。行き場がなくなっている目の前の女の子のために街のバトロールや保護の活動も行う。



大阪ダルクディレクター  
精神保健福祉士 **倉田 めば**

1993年に大阪ダルクを設立。自身が薬物依存症から回復してきた経験を踏まえながら、薬物依存者の支援をしたり家族の相談に乗ったりしている。その傍ら、教育機関での講演や授業などを通して、「ダメ。ゼッタイ。」ではなく、再発予防の見地からの啓発活動をつづけている。カメラマン、パフォーマンス・アーティスト、詩人としての活動もおこなっている。

web <https://jp.smktg.jp/public/seminar/view/2377>



FAXでお申し込みの際は下記に必要事項をご記入の上、こちらの番号へ申込用紙をお送りください。

FAX **03-3545-1125**

セキュリティの都合などで当セミナーのホームページにアクセスできない場合は、当FAX申込用紙に必要事項をご記入の上、左記の番号へFAX送信してください。2営業日以内に申し込み確認のメールを送信いたします。

## 若者に広がる**オーバードーズ** ～実態を理解し、支援方法を探る～

### 参加申込書

貴氏名	ご所属	依存症に関わる立場(あれば)
(代表者名)		<input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> 司法 <input type="checkbox"/> 当事者・家族 <input type="checkbox"/> 回復施設 <input type="checkbox"/> アディクション関連団体 <input type="checkbox"/> 医薬品販売関係 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 報道 <input type="checkbox"/> その他( )
		<input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> 司法 <input type="checkbox"/> 当事者・家族 <input type="checkbox"/> 回復施設 <input type="checkbox"/> アディクション関連団体 <input type="checkbox"/> 医薬品販売関係 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 報道 <input type="checkbox"/> その他( )
		<input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 警察 <input type="checkbox"/> 司法 <input type="checkbox"/> 当事者・家族 <input type="checkbox"/> 回復施設 <input type="checkbox"/> アディクション関連団体 <input type="checkbox"/> 医薬品販売関係 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 報道 <input type="checkbox"/> その他( )

※複数名でのお申し込みの場合は、全員分のお名前をご記入ください。

お住まいもしくは 所属先の都道府県	都・道 府・県	TEL	
		FAX	
E-Mail ※必須(正確にご記入ください)			

出演者の方々へのご質問やご意見等、ご自由にご記入ください。本シンポジウムで取り上げさせていただく可能性がございます。お名前等は公表いたしません。

個人情報の取扱いについて

本シンポジウムの参加申し込みで取得する個人情報は、本事業の委託業者(株式会社時事通信社)の内部規則に基づき厳重に管理し、本シンポジウムに関するご案内・ご連絡、及び関連情報提供のために利用します。 <https://www.jamp.jiji.com/sympo/pp/>

●主催/厚生労働省 連携/文部科学省 ●お問い合わせ先/「依存症の理解を深めるための普及啓発事業 事務局(時事通信社内)」  
〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 all-about-izonsho@jiji.co.jp  
Tel 03-3524-6089 Fax 03-3545-1125